

脊振山～水源の森

梅雨の季節を迎えた脊振山。

山頂付近の標高一千メートルを超えるアカガシの林には、強い雨風が吹き付けています。

尾根には夏の花たちが咲いていました。

ブナの林にも雨が降り注いでいます。

雨は川のように幹を流れます。

上向きに開いたブナの葉は、降ってくる雨を受け止める器のようです。

葉にたまった雨は葉から枝へ、そして枝から幹へと送られます。

幹から木の根元へ流れてきた雨は、森の中に豊かに蓄えられるのです。

ブナの林から流れ出る水の中には、ブチサンショウウオがいました。

こちらはサワガニ。

カゲロウの幼虫。みんなきれいな水が大好きな生き物達です。

山並みが濃い緑に覆われました。梅雨明けです。

ブナの林にも、夏の光が差し込んできました。

森に蓄えられていた水がさかんに湧き出しています。

小さなしずくは、やがて流れとなって山を下り始めるのです。ブナの林は「緑のダム」と言われています。

(どうして?)

ブナの木一本で、水をおよそ一トンくらいの量を蓄えることができるというふうに言われています。

ま、そういうことで、日本の河川は清らかな水をいつも湛えておりますし、夏でも涸れることがない、それはブナのおかげだと言われています。

また、ブナの木は秋にはたくさんのドングリを実らせます。そのドングリが森の動物のえさになるわけですね。

ま、そういうことで、ブナは「森の母」という呼び方をされますし、水を蓄えるということから「緑のダム」というような呼び方もされます。

脊振山 山頂直下、ここが水の生まれる場所、川の源流です。

厚く積み重なった落ち葉の下から水がしみ出し、そうして川へと流れていくのです。ブナの林は水を川へと流すだけではありません。

ブナの木が根元に蓄えた水をさかんに吸い上げ、たくさんの葉の表面から空中に水を放出するのです。

ブナの幹に聴診器を当てると、幹の中を通る水の音が聞こえるそうです。

幹から葉へ、葉から空へ、ブナの木が放出した水は上空に雲を作り、そして再び雨を降らせるのだそうです。

(ずーっと大切にしたいね!)